

## 「新しい教養教育」の視点からの 仙台大学の専門教養演習の取り組み

吉井 秀邦<sup>1)</sup>      阿部 篤志<sup>2)</sup>      黒澤 尚<sup>1)</sup>

1) 仙台大学体育学部   2) 独立行政法人日本スポーツ振興センター



---

## 学会等報告

---

# 「新しい教養教育」の視点からの 仙台大学の専門教養演習の取り組み

吉井 秀邦<sup>1)</sup>    阿部 篤志<sup>2)</sup>    黒澤 尚<sup>1)</sup>

1) 仙台大学体育学部    2) 独立行政法人日本スポーツ振興センター

Hidekuni Yoshii<sup>1)</sup>, Atushi Abe<sup>2)</sup>, Takashi Kurosawa<sup>1)</sup>: A attempt to specialized-liberal arts education method at Sendai University from the perspective of "new liberal arts education": Bulletin of Sendai University, 51 (2): 51-56, March, 2020.

1) Sendai University Faculty of Sports Science    2) Japan Sport Council

---

**KEYWORD** Portfolio, facilitator, Self-assessment sheet

**キーワード** ポートフォリオ, ファシリテーター, セルフ・アセスメントシート

---

## I. はじめに

### 1. 新しい時代における教養教育の在り方について

2002年の中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について(答申)」において、大学における教養教育は、「社会の中での自己の役割や在り方を認識し、より高いものを目指すための知的訓練を幅広く行うことが重要であり、そのためには、大学における教養教育の在り方を総合的に見直し、再構築することが必要」と述べている。

一方でこれまでの成果として、「大学設置基準の大綱化は、各大学における教養教育の改革の取組を促し、多くの大学において、「くさび型」のカリキュラム編成等教養教育と専門教育の一貫教育の実施、特色ある授業科目の導入、選択幅の拡大などのカリキュラム改革が進むとともに、セメスター制の導入や学生による授業評価等を通じた指導方法の改善等に取り組む大学が増加した。さらに、平成11年の大学設置基準の改正において、各大学の自己点検・評価が義務づけられるとともに、履修科目登録単位数の上

限の設定、教育内容等の改善のための教員の組織的研修等(ファカルティ・ディベロップメント)の努力義務化等が行われた。また、教養教育の実施体制については、大学設置基準の大綱化に伴い国立大学を中心に教養部が改組され、多くの場合、全学共通の実施組織が設けられ、全学部の代表からなる委員会の下で学部に所属する教員が授業を担当するようになった」ことを挙げた。

しかし評価をした一方で次のような課題を掲げた。「(1) 教養教育の位置付けをあいまいにしたまま、教養教育に関するカリキュラムを安易に削減した大学が存在すること。(2) 教養教育に対する個々の教員の意識改革が十分に進んでおらず、ややもすれば専門教育が重要で教養教育を面倒な義務と考える教員が存在すること。また、教養教育を担当する教員が積極的に取り組むインセンティブが不十分なため、具体的な教育方法や内容の改善が進まないこと。(3) 教養部に代わって設置された教養教育の実施組織の学内での責任体制が明確でなく、その結果、教養教育の改善が全学的取組となっていないこと。(4) 学生の側に、教養教育を含め学部4年

間の教育に対する目的意識が明確でなく、教養教育に熱心に取り組む意欲が乏しいこと。」

## 2. 仙台大学における新しい教養教育

このような状況を踏まえ、仙台大学では教養教育の再構築として、平成23年度より体育系大学らしい新しい「教養教育」を導入した。

その新しい「教養教育」の一つの構成科目である「仙台大学の専門教養演習」における授業方法や課題について、「サッカー」グループが授業創設年度である平成24年に実践した授業例について報告する。

なお、この授業実践にあたって、2012年の中央教育審議会答申「新たな未来を築くため大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ－」において、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要」とあり、本授業においてもアクティブ・ラーニングを導入した授業実践を行った。

## Ⅱ. 教養展開科目「仙台大学の専門教養演習」(サッカー)の概要

### 1. シラバスと授業計画(平成24年シラバスから)

#### 1) シラバス

##### (1) 授業の概要

本科目の概要は「所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定し、毎回の授業演習において、当該競技その他の諸活動に係る人文科学・社会科学・自然科学各方面のトピックス等を順番に題材として取り上げ、仙台大学各学科の専門領域に関する知識習得の基盤となる人文科学・社会科学・自然科学各面の各種の教養知識を学ぶ。」であった。

##### (2) 一般目標

本科目の一般目標は「体育系大学におけ

る専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された新設科目であることから、ポートフォリオ学習等を取り入れ、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門教養の学習成果について、基本的な教養に裏打ちされたものとして、卒業後に実践できる力を付与する。」であった。

#### (3) 到達目標

- ① 認知的領域「専攻するスポーツ競技等の諸活動が、如何に人文科学・社会科学・自然科学各面の各種の教養知識に裏打ちされているかを知覚させる
- ② 情意的領域「体育系大学で学ぶことの意義について、認識を深めさせる
- ③ 技能表現的領域「ポートフォリオ学習方式を身につけさせる

#### 2) 授業計画

全教員がそれぞれの専攻領域に係る人文科学・社会科学・自然科学各面の各種の教養知識トピックスを、教養知識という切り口から整理し、各回の演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。

## 2. 授業実践概要

### 1) 平成24年度

#### (1) 対象

サッカーに興味のある学生64名

#### (2) 授業創設年度当初の課題

- ① 男女合わせて70名近い部員・興味ある学生に対して、どのように演習を展開すべきか(量の問題)
- ② 授業の目的をはたすために、サッカーに関わるトピックスと各教養領域をいかに組み合わせるか、またどのような方法が学生の主体的な学習を促進するか(質の問題)
- ③ この授業を通じていかに部員間の新たなコミュニケーションを創出し、チーム力の向上に結びつけるか(副次的効果の想定)

#### (3) 課題に対して取り入れた工夫

- ① 「ランダム・グルーピング」と「ファシリテーター」グループの設置

仙台大学の専門教養演習の新しい取り組み

- ②「プレパレーションシート」の利用
- ③「テーブルトップ・パッド（大型のふせん）」を活用したグループワーク
- ④「グループ&ユニット・ディスカッション」の導入
- ⑤「セルフ・アセスメント・シート」と「就業力向上ポートフォリオ」の記入

(4) 授業実施内容

① テーマ設定

学生の興味関心があり、かつスポーツ界におけるグローバルな課題も視野に入れてテーマを担当教員で考え決定した。(図1)

- ② 関連する教養領域（日本学術会議・分野別委員会を基準）を各トピックスに割り当て厳密な関係性よりも「網羅的」「関連性の探索（主体的な関連づけ）」を重視した。(図2)

図 1

回	主担当	日程	トピックス
1	-	5/16	サッカーにおける仙台大学の専門教養演習の進め方
2	阿部	5/30	Jリーグ100年構想
3	吉井	6/13	Jリーグのアジア戦略について
4	阿部	6/27	無回転のシュートはなぜふれるのか？
5	吉井	7/11	データストライカー
6	黒澤	7/25	ヒジャブ
7	阿部	10/12	南アフリカ W 杯における高地対策（特別講師：三重大学・杉田正明氏）
8	吉井	10/17	ソシオ制度とは？（NPO法人との違いは？）
9	服部	10/31	試合前の食事について
10	黒澤	11/14	プレー環境の相違による男女サッカーの心理的違いは？
11	黒澤	11/28	大学サッカーにおける学連の役割とは？
12	吉井	12/12	JFA アカデミー福島/熊本宇城/堺について
13	黒澤	1/9	ベガルタレディースが宮城県に及ぼす影響
14	阿部	1/23	ドーピング（我那覇問題）

図 2

実施項目	関連する教養領域（日本学術会議・分野別委員会を基準）																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
1. サッカーにおける仙台大学の専門教養演習の進め方																			
2. Jリーグ100年構想			○											○					
3. Jリーグのアジア戦略について		○																	
4. 無回転のシュートはなぜふれるのか？ マラリア熱 赤い血の謎																	○	○	
5. データストライカー																			
6. ヒジャブ						○	○												○
7. 南アフリカW杯における高地対策												○	○			○			
8. ソシオ制度とは？（NPO法人との違いは？）				○															
9. 試合前の食事について										○	○			○					
10. プレー環境の相違による男女サッカーの心理的違いは？			○				○	○											
11. 大学サッカーにおける学連の役割とは？				○	○	○													
12. JFAアカデミー福島/熊本宇城/堺について																○			
13. ベガルタレディースが宮城県に及ぼす影響			○																

## ③「ランダム・グルーピング」と「ファシリテーター」グループの設置

量への対応を考慮し、グループワークを中心とした演習形式で行った。また、各回のテーマごとに新しいグループメンバーと活動できるよう乱数表でランダム・グルーピングを作成し、部員間の新たなコミュニケーションを図った。

各回の授業進行としてファシリテーション役の学生グループが担当した。その際に教員はあくまでも補佐役に徹した。(図3)

## ④「プレパレーションシート」の利用

目的は事前学習を計画的に実施すること。毎回次回用として、教員がテーマや関連する教養領域を記載したシートを作成し配布した。シートの項目にそって、学生は「各教養領域の概要」や「テーマの概要」を調べて記入した。

各自が調べた内容をグループ内で共有しまとめた。(図4)

## ⑤「テーブルトップ・パッド(大型のふせん)」を活用したグループワーク

グループで調べてきたことを整理し、

ディスカッションを促進するためのツールとしてテーブルトップ・パッドを活用した。

テーブルトップ・パッドの活用により、自立式なのでグループで議論しながら書き込みやすいという利点があったことや、ふせんになっているので1枚ずつはがして並べて壁に貼ることができ、ファシリテーション・スキルの向上にも繋がった。(図5)(図6)

## ⑥「グループ&amp;ユニット・ディスカッション」の導入(授業進行の工夫)

少人数のグループ活動を活かしながら、最終的にはクラス全体で各グループで議論された内容を共有した。

グループ→ユニット→全体というステップで情報を集約・共有し、それをファシリテーターが報告し、質問があった場合には各担当グループが回答した。(図7)

ファシリテーターによる全体発表の様子。自らスパイクを持参し説明する工夫も見られた。(図8)

図3

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	回	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
2	日程	5/30	6/13	6/27	7/11	7/25	10/3	10/17	10/31	11/14	11/28	12/12	1/9	1/23
3	1	FG	A2	A3	C2	B1	B3	A2	A3	A1	B3	A2	A1	B2
4	2	FG	C1	C4	A1	B4	C1	C1	C3	B3	A3	A3	C3	A2
5	3	FG	A1	C4	B4	C2	B1	C2	A3	C4	C2	C3	B3	A4
6	4	FG	A2	B1	B2	A2	C3	B3	B4	A4	C4	B3	A2	B1
7	5	C2	FG	C3	B2	B3	C2	C4	A3	C4	C3	A1	C3	B4
8	6	B3	FG	C1	A3	A3	B1	A3	B3	B2	B3	A4	A1	B2
9	7	A2	FG	A2	B3	B2	C2	B2	B2	A4	B3	B4	A2	C2
10	8	A4	FG	A2	B2	A1	C3	B2	C3	C1	C3	B3	B1	B3
11	9	A1	FG	A4	C4	A4	A3	C2	C3	B3	C1	A4	B4	A1
12	10	C1	C4	FG	B3	C1	A1	A4	A1	B1	B1	C3	C4	A4
13	11	B2	A4	FG	A2	A4	C2	C2	B3	B3	C3	C3	C2	A3
14	12	B1	C4	FG	B1	A4	C3	B4	C4	B1	A3	B3	A1	C4
15	13	B4	A3	FG	A4	B3	C4	C3	A2	A3	C3	B1	C3	C4
16	14	C2	B2	FG	C1	B3	B1	C2	B1	B2	B2	B2	C1	C1
17	15	C4	C2	A2	FG	A1	C3	B3	B2	B2	A2	B3	B2	A1
18	16	B3	B4	B2	FG	A1	B4	B2	C1	C3	C3	A4	C3	B4
19	17	C2	A4	B4	FG	B4	C1	A3	B2	C1	C2	C1	C1	A4
20	18	B3	A3	C1	FG	C4	A1	A2	B4	B2	C1	B4	A3	C4
21	19	C1	C2	C3	FG	A2	A3	A1	B1	C1	C2	C2	A4	A2
22	20	B2	C1	A2	C1	FG	A3	A2	A2	B3	B4	A1	B4	B1
23	21	B3	B3	A1	C4	FG	C3	A1	A4	B4	B4	A3	C1	A1
24	22	C3	C3	B4	B3	FG	A3	C2	B4	B3	B2	B1	C2	C2
25	23	A1	A3	C1	A2	FG	B1	A4	C1	C4	C1	C3	C4	B1
26	24	C2	C2	B4	C3	FG	A4	A3	B1	C2	A2	C1	A3	B4
27	25	B2	A2	B3	A1	A2	FG	A3	A4	C3	B4	B2	B4	C1

仙台大学の専門教養演習の新しい取り組み

図4

平成24年度 仙台大学の専門教養演習 プレパレーションシート				【資料2】
配布日：2012年10月31日				
サークル名	サッカー部			
次回実施日	2012年11月14日（第10回）			
次回テーマ	プレー環境の相違による男女サッカーの心理的違いは？			
学習する教養領域	心理学・教育学	基礎生物学	統合生物学	
各教養領域の概要 (各自で調べて簡潔にまとめてみよう)				
テーマの概要 (各自で調べて簡潔にまとめてみよう)				
グループが 担当する役割	ファシリテーター	プレゼンター		
グループ課題 (担当するグループ課題について記入)				
発表方法	資料配布 ・ プレゼンテーション ・ ポスター発表 その他（ ）			
グループ ミーティング用 メモ欄				
グループ No. _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____				

図5



図6

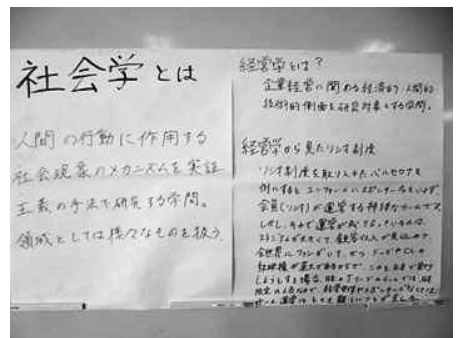


図7

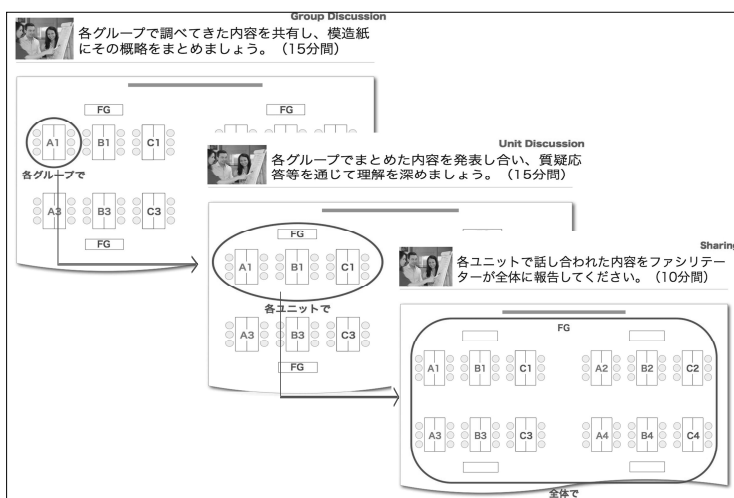


図8



### Ⅲ. おわりに

---

大学設置基準の大綱化以降、日本の大学における教養教育が迷走する中で、仙台大学では「新しい教養教育」を標榜し、その中で「仙台大学の専門教養演習」という授業を新たに開講した。

今回平成24年時に行った「サッカー」クラスでの授業を紹介した。

授業当初の課題に対しての授業担当者の評価や学生の評価・検証は、次年度への改善策とその実施も含め別途報告するが、評価と課題は概ね下記の通りであった。

#### 1) 量の問題

- ・報告した方法により、大集団における実効性のある少人数学習を企図。基本的には約80名すべての学生が授業への主体的な関わりを持つことができたので、課題はあるものの一定の成果があった。
- ・次年度2学年・合計122名（3年生・61名、2年生・61名）を対象としていかに授業を実施するかの課題が出た。
- ・量の問題を解決しつつ、さらに授業の目的をはたしていくためには「学年」という新たな要素2学年合同という新たな要素を積極的に捉え、活用したグループワークの形を構想しなくてはいけないという課題が出た。

#### 2) 質の問題

- ・セルフアセスメントシートの簡易的な定性分析により、多くのトピックスで6～7割の受講者が興味を持って取り組めたことが明らかとなった。
- ・プレパレーションシートの簡易的な定性分析により、トピックスと教養領域を関連付けが容易なものと困難なものの差が大きくあることが明らかとなった。

- ・本科目がなければ、これだけ多くの教養領域の存在そのものや、それぞれの基礎知識に目を向けることはなかったことを考えると、初年度の試みとしては一定の成果があった。
- ・プレパレーションシートを活用した事前学習には受講者間に差が見られた。授業に来てからその場でスマホなどで調べて書いている学生も散見された。
- ・一方で、ボールやスパイクなどを自主的に持参して、それを用いてプレゼンテーションを行なうなど、トピックスと教養領域の融合に主体的に向き合う学生グループがあったことは評価できた。
- ・グループワークやファシリテーション、プレゼンテーションも、実践と教員からの助言等を通じて少しずつ上達していったことは、今後のあらゆる場面に有効であると考えた。

以上の通り、まだまだ試行錯誤しながらではあったが、「サッカー」クラスにおいて課題は残るものの概ね本授業の目標を達成する授業展開ができた。

次年度の取組については、前述の通り、別途報告することとした。

### 参考文献

---

- 1) 中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について（答申）（2002）。

（ 2019年 11月28日受付 ）  
（ 2020年 2月 3日受理 ）